

恵庭市水道事業ビジョン・経営戦略について

- 中長期的な視野に基づく水道事業の経営基盤の強化と財政マネジメントのため、令和2年3月に恵庭市水道事業ビジョン・経営戦略を策定
- 計画期間は令和2年度～令和11年度の10年間
- 令和6年度で策定から5年経過し、計画の中間年となることから今回中間見直しを実施

水道事業の概要

- 恵庭市は平成27年度に恵庭浄水場を廃止し、現在は石狩東部広域水道企業団より水道水の全量を受水(水を購入)
- 昭和37年度に水道事業を開始し、現在は第3次拡張事業変更の状況

項目	内容	備考
認可年月日	平成30年9月12日	第3次拡張事業変更
計画給水人口	70,970人	
計画一日最大給水量	30,400m ³ /日	
現在給水人口	69,516人	令和6年3月末
現在一日最大給水量	21,042m ³ /日	令和6年3月末
現在給水普及率	99.3%	令和6年3月末

主要施策の進捗状況

- 計画策定時に基本方針と主要施策を策定し、**主要施策については中間見直し時にすべて達成**

基本理念	基本目標	基本方針	施策内容
清浄にして豊富低廉な水の供給を図る 市民のための水道は、水道事業運営	I 安全 水道水の安全・安心な確保	(1) 水質管理体制の充実	施策1 水安全計画の適切な運用
			施策2 水質管理体制の徹底強化
		(2) 供給水質の確保	施策3 直結給水の推奨
			施策4 給水装置等の適正管理
	II 強靱 水道の構築	(1) 水道施設の強靱化	施策1 耐震化の推進
			施策2 適切な資産管理の推進
		(2) 災害対策・危機管理体制の強化	施策3 応急給水体制の確保及び推進
			施策4 災害時応急活動体制の整備
	III 持続 次世代につながる水道事業運営	(1) 水道施設の効率的な整備	施策1 老朽管路の計画的な更新
			施策2 漏水対策の強化
		(2) 人材の育成と技術の継承	施策3 職員教育の充実
			(3) 経営基盤の安定
(4) サービスの向上	施策5 水道事業広域化の推進		
		施策6 利用者サービスの充実	

今後の取組

- 過去4年間の計画と実績（R2～R5年度）を比較
- 令和2年度から今回の中間見直しまでの環境の変化を踏まえ、将来の事業環境を推測
- 令和7年度以降の計画後期に新たに取り組む課題
 - 老朽化対策の更なる推進
 - 健全な財政収支計画の策定

経営戦略

- 現行の計画と見直し後の計画について比較
- 計画期間前期（R2～R6）の投資計画、財源計画は概ね計画どおり
- 中間見直しにて令和7年度以降の財政収支計画を再策定
- 後期計画期間の目標
 - 投資目標：管路施設の耐震適合管の割合100%
 - 財源目標：黒字経営
 - ：流動比率200%程度を維持
 - （算出式：流動資産/流動負債×100）

要 旨

- ### 1) 現行計画の進捗状況と財政収支への影響要因
- 現行計画の進捗評価（令和2～5年度）
 - ・耐震化事業、緊急貯水槽の整備等、概ね計画どおりに施策を実施
 - ・当年度純利益、料金回収率、現金及び預金、流動比率は計画値よりも良好

- 財政収支へ影響を及ぼす事業環境の変化（令和7年度以降）
 - ・物価、労務単価の上昇
 - ・近年の自然災害多発により水インフラ施設の重要性が再認識され、老朽化施設の更新需要が増加
 - ・水道企業団の老朽施設増大への対応に伴う、令和11年度以降の受水費増額の予定

2) 財政収支見直し

- ・物価上昇によるメーター設置費増額等により、減価償却費が増加し純利益の減少が続く見込み
- ・令和11年度以降は老朽管更新事業への投資を増額及び受水費が増額する影響を受け、経常赤字が発生する見直し
- ・原価計算の結果、令和2～11年度は水道料金で必要な費用を回収できる見込み
- ・計画期間内においては、現行の水道料金水準は妥当と判断

3) 今後の方針

- ・計画期間全体の原価計算より料金は妥当であると判断できることから、計画期間内は料金改定を行わない方針
- ・日常の事務業務の効率化等、経営改善に向けて不断の努力を継続するとともに、決算状況や新市街地開発等の地域環境の変化などにも注視し、適切なタイミングで財政収支見直し及び経営戦略を見直すことで水道事業の健全な経営を継続
- ・次期計画期間の水道事業の健全な運営に向けて、令和8年度頃から料金水準を検討

フォローアップ

- PDCAサイクルを適用して経営戦略の実効性を確保
- 毎年決算確定後に進捗管理を実施
- 進捗管理の結果は恵庭市公営企業経営審議会や議会等に報告
- 計画の見直しは3～5年間隔を基本
- 周辺環境に大きな変化があった際などは見直しを実施

中長期的な財政収支見直し（参考）

- 参考として、将来50年間の長期の財政収支を推計
- 複合的要因から令和12年度以降は経常赤字が常態化と推測
 - 要因：料金収入の減少、受水費増額、管路更新事業の本格化に伴う減価償却費の増加等
- 次期経営戦略（計画期間：令和12年度～令和21年度）においては早い時期に料金改定を行うなどの経営改善が必要



ロードマップ（参考）

- 次期計画の見直し予定時期については令和11年度を予定
- 周辺環境の変化や財政状況によっては令和8年度頃に計画を改定



原価の算出（参考）

- 水道料金は、適正な原価に基づき算定する
 - *今回、経営戦略策定・改定マニュアル（総務省）の原価計算表活用
- 計画期間の料金対象経費（＝原価）と給水収益を比較すると、計画期間の10年間では、**現在の料金水準が妥当であることを確認**

料金体系の検討（参考）

- 水道料金の料金体系は各自体で異なる
- 恵庭市は用途別口径別料金の併用を採用している
- 近年の生活様式の多様化の結果、用途の区別が曖昧になっており、料金改定にあたっては、用途別から口径別への移行やその他基本料金や基本水量制の見直し等、料金体系のあり方についても検討が必要

・水道事業ビジョン～恵庭市水道事業の基本理念、基本目標、基本方針、そして主要施策を取りまとめたもの。
 ・経営戦略～公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画。策定や改定については国からも求められている。
 ・流動比率～短期的な債務に対する支払能力を表す指標。

・中長期的な財政収支見直し、ロードマップ、原価の算出、料金体系の検討については参考として本編、概要版の巻末に掲載